

# 8月4日「橋の日」記念日、 宮崎発祥の取組を全国に発信

「橋」への思いを、地域づくりの架け橋に



**大田原 宣治**

OTAHARA Nobuharu

宮崎「橋の日」実行委員会  
会長



**鶴羽 浩**

TSURUHA Hiroshi

宮崎「橋の日」実行委員会  
事務局長



**湯川 大介**

YUKAWA Daisuke

宮崎「橋の日」実行委員会  
事務局長代理

8月4日(ハシ)「橋の日」は、昭和60年に宮崎県延岡市出身の湯浅利彦氏が提唱した宮崎発祥の記念日である。宮崎「橋の日」実行委員会は、昭和62年に設立し、宮崎市中心部の大動脈である国道220号の大淀川に架かる橋橋において第1回「橋の日」イベントを開催して以来、今年、34年目を迎えることができた。

当会ではこれまで、毎年8月4日に記念イベントを実施するとともに、シンボルマークやテーマソング、のぼり旗の制作等による広報活動、また、「橋」に関するポスターや紙芝居、絵本の制作等による地域に根ざした活動、さらには、橋の日サミットやシンポジウム等の開催による「橋の日」活動の全国への発信など、「橋」に関する様々な取り組みを実施しており、平成27年には、「橋の日」活動が全国47都道府県まで拡大した。今後も引き続き、「橋の日」活動の輪が一層広まるよう頑張りたい。

本稿では、当会の設立経緯や歩み、主な活動等について紹介する。

「愛の架け橋」「橋渡し」「石橋をたたいて渡る」など、数多く例えて使われているように、橋は、人・物・心・文化を渡し、人と人・地域と地域をつなぐなど、まさに架け橋となり、私たちに大きな恩恵を与えてくれる。

このようなことから、宮崎「橋の日」実行委員会では、日頃、何気なく利用している橋とのふれあいを通して、橋の役割を再認識するとともに、道路・河川のア護や浄化への意識を高め、ひいては郷土愛を深めるために、8月4日に記念イベントを実施している(写真-1)。



写真-1 参加者全員で記念写真

## はじめに

私たちの生活に身近な川や谷、海、道路、鉄道などを越えて架かる橋は、日々の暮らしや産業経済活動、地域の歴史・文化などに密接な関わりを持っており、未来に受け継ぐかけがえのない財産である。そして、どの橋も、先人たちが知恵を生かし工夫を凝らしながら努力され遺していただいた汗の結晶であることから、橋に感謝し、いつまでも大事にしたいものである。

橋には、その地域の歴史を物語るロマンがあり、幼い日の懐かしい思い出がある。また、昔から「心の架け橋」

## 1. 「橋の日」制定と実行委員会設立

「橋の日」は、郷土のシンボルである河川とそこに架かる橋を通して、ふるさとを愛する心の高揚と河川の浄化を図ろうと、延岡市出身で元橋梁メーカー会社員の湯浅利彦氏が昭和60年に提唱し、翌61年に湯浅氏参加のもと、全国に先駆けて初めて、延岡市で「橋の日」活動が実施された。

宮崎「橋の日」実行委員会は、昭和62年8月21日、当時の松形宮崎県知事を囲む朝食会に参加した湯浅氏の「橋の日」に関する話題に関心を示された知事の賛同を得て、宮崎商工会議所会頭であり「新ひむかづくり運動県



民会議」会長である塩見一郎氏を会長、宮崎大学工学部の藤本廣教授を相談役として設立した。その後、延岡市は「橋の日」の発祥地、宮崎市は「情報発信地」としての役割を担い、それぞれ活動が続けている（写真-2）。



写真-2 第1回 宮崎「橋の日」イベント

## 2. 広報活動のツールとして

宮崎「橋の日」実行委員会設立後の最初の10年間は、「橋の日」という経験のない活動を手探りの中で推し進める基礎づくりのような期間であった。まず、この活動を全国に広げるために、「橋の日」をイメージしたシンボルマークを制作することとなり、全国に公募したところ、305点の応募（写真-3）があり、図-1のマークを選定した。



写真-3 「橋の日」シンボルマーク審査状況



図-1 選定した「橋の日」シンボルマーク

次に、「橋の日」のテーマソングの制作も行った。作詞は湯浅氏、作曲は斎藤正浩氏で、現在この歌は、プロ歌手の大城光恵氏の歌でCD化し、希望者に有償にて配布している。

その他、8月4日の記念イベント用に「橋の日」ののぼり

旗を制作し、宮崎県内及び県外他団体に、「橋の日」活動を実施する際に活用していただけるよう無償で提供している。また、当会の会員用として、Tシャツやポロシャツ、帽子等を制作し、各会員が日頃から着用することで「橋の日」の広報に努めている（写真-4）。



写真-4 「橋の日」ポロシャツと帽子

## 3. 8月4日当日のこれまでのイベント

平成6年には日本記念日協会から、念願であった8月4日「橋の日」の認定を受け、この頃より行政や民間企業等から様々な支援が受けられるようになった。

8月4日の記念イベントにおいては、橋への感謝の気持ちを込めた献花や清掃活動を実施するとともに、参加する子どもからお年寄りまでみんなが楽しめるよう、吹奏楽部や合唱団等によるコンサートや、魚やうなぎの放流、打ち水大作戦、橋みがきなど、工夫を凝らした様々なイベントを実施してきた（写真-5～7）。



写真-5 橋への感謝を込めた献花



写真-6 橋を涼しく、打ち水大作戦





写真-7 心を込めてゴシゴシ、橋みがき

#### 4. 地域に根ざした活動として

活動10年目を迎えた頃から、8月4日の記念イベントだけでなく、地域に根ざした活動に力点を置くようになり、宮崎「橋の日」の実施会場である橋の歴史を調べていくうちに、福島邦成氏（私財を投じて「初代橋橋」を架橋した医師）の存在を抜きにして地域を語れないことを再認識した。これを機会に、「福島邦成と橋橋」と題した紙芝居を制作し、現在も宮崎市内で上演会を続けている。

また、平成13年には、宮崎県内に現存する94橋の石橋をまとめたポスターを制作し、県内の全小中高校に配布したところ、各業界の広報誌に紹介され、テレビ番組で特集が組まれるなど大きな反響があり、このポスターをきっかけに、県内で合計389橋の石橋が現存することが明らかになった。

さらに、平成15年には、宮崎県民から応募いただいた県内の魅力ある橋、総数303橋の中から101の橋を選定した上で、「宮崎の橋101選」ポスターを制作し、県内の高校や大学、関係機関等へ2,000枚を配布した。この制作を通して、橋梁は全ての先人の努力と知恵、技術の賜物であることを再認識することともに、改めて地域を知り、愛するきっかけとなった（図-2）。

その他、平成26年には、寛文2年（1662年）に発生し宮崎県に大きな地震と津波による甚大な被害をもたらした日向灘大地震（外所地震）を題材に、県民の防災意識向上のための取り組みに活用していただくよう、紙芝居とDVDを制作し、県に寄贈した。

このとんとところ地震については、発生後50年ごとに地震・津波供養碑がこれまで7基建立されており、地域住民による供養祭及び供養碑建立が350年以上にわたり今日まで受け継がれている。このような地域の取り組みが、当会の活動と通じるものがあると考えている。

令和元年には、子どもたちに手にとってもらえるよう絵本化に着手し、1年かけて制作した。今後、県と連携して、全ての小学校に寄贈する予定である（写真-8）。



図-2 「宮崎の橋101選」ポスター

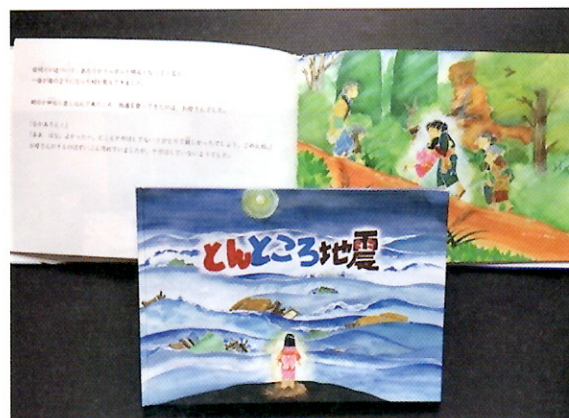


写真-8 「とんとところ地震」絵本

#### 5. 「橋の日」活動の全国発信

活動20周年を迎えた平成18年、全国発信の機会として以前から構想を練っていた「橋の日サミット in みやぎ2006」を宮崎市で開催した。メインイベントの「橋の日」パネルトークでは、パネリストとして、ほくりく橋の日実行委員会、東京橋の日実行委員会、奈良県十津川村役場、鹿児島橋の日推進協議会からお越しいただき、「橋から見る地域づくりとロマン」をテーマに、熱く語っていただいた（写真-9）。

その後、活動25周年の平成23年、活動30周年の平成28年には、「『橋』を通じた地域づくりシンポジウム」



を宮崎市で開催し、県外の専門家による基調講演や県内外の団体による事例発表等を行った（写真-10）。



写真-9 橋の日サミットパネルトーク



写真-10 「『橋』を通じた地域づくりシンポジウム」

このような全国に広げる活動が実を結び、平成 27 年には、宮崎で生まれ育った「橋の日」活動が、全国 47 都道府県まで拡大し、同年、当会は日本記念日協会より「記念日文化功労賞」を受賞した。

また、同年、長年の道路清掃活動に対して、日本道路協会より「道路功労者」表彰を受けた。

さらに、平成 30 年には、長年の社会貢献活動に対して、宮崎県知事より「明日のみやざきづくり」表彰を受けた（写真-11）。



写真-11 河野宮崎県知事との記念撮影

## 6. 「橋の日」の新たな取組

平成 29 年からは、橋に感謝するだけでなく、市民目線で橋を含めた道路施設のメンテナンスにも興味を持っていただけるよう、国土交通省九州地方整備局宮崎河川国道事務所の御協力により、「橋の日」当日に、橋橋見学会と「道路老朽化対策」パネル展を開催しており、参加した小学生は、「すごい！コンクリートを叩くと、いろんな場所で音が違う！」と興味津々であった（写真-12、13）。



写真-12 橋橋の見学会



写真-13 「道路老朽化対策」パネル展

## おわりに

慌ただしく、ただ繰り返す日常の中では、そこに「橋」があることに気づいていない人も多いのではないかと思います。本当に大切なものは、目に見えないものなのかもしれない。人はみんな、気づかぬうちに誰かに支えられて生きているが、「橋」も、私たちを支えてくれている。そういう気持ちにさせてくれるところに、「橋」の魅力を感じる。

8 月 4 日「橋の日」記念日が、地域づくりの心の架け橋になるよう、これからも宮崎発祥の取り組みを全国に発信し、広げていきたい。